

## 栃木県及び周辺の地震活動（令和 7 年 11 月）

### 【地震活動概況】

今期間、県内で震度 3 以上を観測した地震はありませんでした（前月 3 回）。

期間内の県内の最大震度は 2 で、震度 1 以上を観測した地震は 7 回（前月 10 回）ありました。

### 【栃木県及び周辺の地震活動】

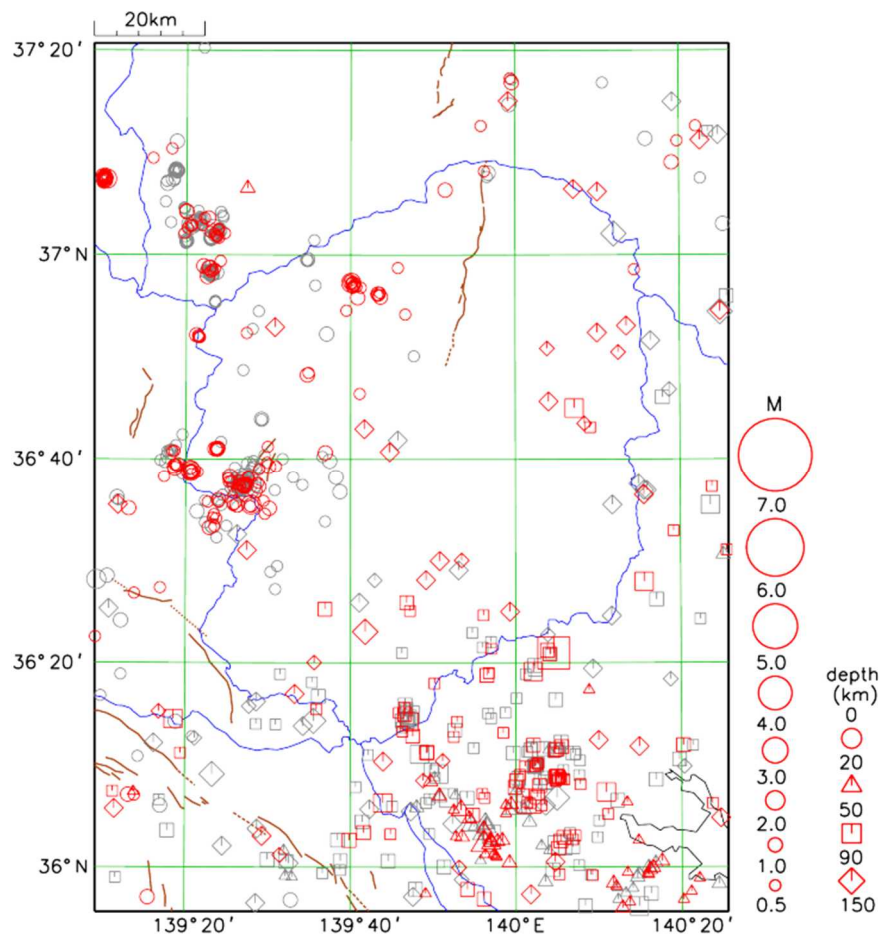


図 1 震央分布図（2025 年 10 月 1 日～2025 年 11 月 30 日）

- ・ 今期間の地震活動を赤色で、前月の地震活動を灰色で示しています。
- ・ M はマグニチュードで 0.5 以上、深さ（depth）は 150km までの地震を示しています。
- ・ 図中の茶色線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示しています。

本資料は国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを使用している。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025 年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。※データについては精査により、後日修正することがある。また、本資料中で使用している地図は、『数値地図 25000（行政界・海岸線）』（国土地理院）を加工して作成した。

地震 No.	発震時		震央地名	北緯	東経	深さ (km)	マグニ チュード*	国内最 大震度	県内最 大震度
	月日	時分							
1	11月2日	23時15分	茨城県南部	36° 02.2'	139° 56.1'	44	3.6	2	2
2	11月4日	14時00分	茨城県南部	36° 06.4'	140° 01.5'	68	3.6	2	2
3	11月7日	17時26分	群馬県南部	36° 35.4'	139° 27.9'	8	2.6	1	1
4	11月9日	6時24分	茨城県南部	36° 20.9'	140° 04.6'	71	4.0	2	2
5	11月9日	17時03分	三陸沖	39° 24.1'	143° 30.4'	16	6.9	4	2
6	11月12日	6時50分	茨城県北部	36° 27.8'	140° 36.0'	56	3.8	2	2
7	11月13日	9時54分	茨城県沖	36° 11.4'	141° 40.1'	25	4.9	1	1

・各地震の震度1以上を観測した観測地点名については、気象庁HP「震度データベース検索」により確認できます。

<https://www.data.jma.go.jp/eqdb/data/shindo/index.html>

### 【震央分布図範囲内の地震】

今期間中、県内を震源とする震度3以上を観測する地震などの目立った地震活動はありませんでした。

### 【震央分布図範囲外の地震】

今期間中、県内で震度3以上を観測する地震などの目立った地震活動はありませんでした。

### 【防災メモ】ポータブル電源について

「全道ブラックアウト」。これは2018年9月の北海道胆振東部地震に伴って発生した、北海道全域の大規模停電を指す言葉です。震源近くにあった大規模火力発電所が損傷して停止したことをきっかけに、水力発電所や風力発電所でも送電線の損傷や安全装置の作動によって停止が相次ぎ、最終的に域内全ての電力供給が止まってしまいました。

電気が止まるということは、単に照明が消えるだけではありません。冷蔵庫・暖房・給湯設備が使えなくなるのはもちろん、情報通信機器も影響を受けるため、重要な情報を得ることすらできなくなります。災害時に電源をどのように確保するかは、行政だけでなく、各家庭でも考えておくべき大切な課題です。

近年は、キャンプや車中泊の需要拡大によりポータブル電源を利用する人が増えています。これは、バッテリーの耐久性向上や小型高容量化、充電時間の短縮など技術の進歩が背景にあります。各メーカーから幅広い容量の製品が発売され、さらに太陽光パネルも安価に入手できるようになったため、電気の“自給自足”もしやすくなりました。

では、防災用として準備する場合、どの容量を選べばよいのでしょうか。

災害時に最も重要なのはスマートフォンの充電です。避難情報や気象情報の確認、家族との連絡、SNSでの状況把握など、現代の避難生活は「スマホが使えるかどうか」で大きく変わります。さらに冬季の停電では、寒さ対策として電気毛布などの「人を直接暖める」電気機器が役に立つ場面もあります。これらの使用には、最低でも250～300Wh程度の容量を持つ製品を準備しておくで安心です。家族が多い場合は必要な容量も増えるため、使用する電化製品の優先順位を整理し、それに応じた容量を選びましょう。

また、ポータブル電源は「購入して終わり」ではありません。常に使える状態を維持するため、置き場所を決めておき、月に一度は電池残量を確認するなど、日頃の管理も大切です。手間はかかりますが、災害時に「電源難民」にならずに済むというメリットは、それ以上に大きな価値があります。

「電気があるかどうか」で、災害時の行動や心の余裕は大きく変わります。ポータブル電源という新しい備えを取り入れることで、停電中でも必要以上に不便を感じることなく、普段に近い落ち着いた生活を保つことができるでしょう。こうした道具もうまく活用しながら、各家庭に合った停電への備えを、無理のない範囲で進めてみてください。

- ・ 大規模地震に備えるための家庭での停電対策について（内閣府パンフレット）  
[https://www.bousai.go.jp/jishin/syuto/denkikasaitaisaku/pdf/teiden\\_low.pdf](https://www.bousai.go.jp/jishin/syuto/denkikasaitaisaku/pdf/teiden_low.pdf)
- ・ 災害の「備え」チェックリスト（首相官邸HP）  
<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/bousai/sonae.html>

資料についての問い合わせ先 ： 宇都宮地方気象台 電話 028－635－7260